

米 沢

参道に雪灯籠、幻想的に 雪不足も冬の祭典華やぐ

米沢商工会議所（山形県）や米沢市などでつくる米沢四季のまつり委員会は2月8～9日の2日間、冬の風物詩である「上杉雪灯籠まつり」を上杉神社境内、周辺で開催した。参道に連なる雪灯籠のあかりが幻想的な雰囲気を出すこの祭りは、7人の市民から始まり、今回で43回目。雪の美や風情を楽しむと同時に、平和の礎となった戦没者の御霊（みたま）に献灯し、命の尊さと世界の恒久平和を願う催しとして受け継がれている。雪灯籠は市内の企

業、団体、学校などが製作。例年約110団体が参加し、220基ほどが設置されるが、今年は記録的暖冬による雪不足のため西吾妻山から雪を運び入れ、41団体による43基を設置、2日間で16万2千人が訪れた。

参道周辺の「伝国の杜（もり）前広場」には、東北芸術工科大学（山形市）の学生がデ



上杉神社の参道・境内に並ぶ雪灯籠

ザインしたキャンドルゾーンに加え、氷にキャンドルをともし「アイスキャンドル」が新たに登場。また、歌や踊りなどのさまざまなステージイベント、米沢のグルメが集まるテント村物産展も開催され、訪れた人々を楽しませた。

「今年は雪不足に加え、新型コロナウイルスの懸念から来場者数は減少

したが、地域一丸となって開催し、好評を得た。また来年につなげたい」と同所は話している。